

伊勢神宮だから参加する人々—文化的空間が行動に影響を 与えるのか—

板井正斉（皇學館大学）

発表者は、宗教社会学の立場から宗教の社会貢献活動をテーマにしている。本研究の目的は、従来宗教が担ってきた伝統的な価値観を現代社会との互惠性から再考することにある。個人の信念に基づく利他的行動は、いと小さき営みから、大規模教団の NGO 活動に至るまで幅広く展開されているものの、その主体は宗教者や宗教教団によるため信仰を意識する国民が 3 割程度のわが国では限られた行動しか捉えられない。その一方で、民族宗教としての神道は、宗教性の違いを意識して地域における鎮守の森の環境的役割や、氏子組織による祭礼文化等を通じた地域ネットワークから、その紐帯に神道的価値観を見いだそうとする研究視点が提案されてきた。そこで発表者は、伊勢神宮を訪れる高齢者・障害者の参拝ボランティアからその活動動機に神道的価値観の抽出を試みた。そこから「神社がそこにある」ことの文化的価値が利他的行動動機にもつながっていることを指摘する。